



四万十町
町内ぶら〜り散策

茂串町

しげくしまち



現

在219世帯、435人が暮らしている茂串町を、今月と来月の2回にわたってご紹介したい。

国道381号ができるまでは、岩本寺の門前を東西に走り、旧半平旅館の前を過ぎ、古市町方面へと抜ける通りがメインストリートで、この道が伊予・宇和島へ向かう「旧街道（窪川街道）」であった。現在の本庁舎前の南北の通りと、この旧街道が交わるT字路辺りから西側一帯が茂串町である。

この町の歴史は古く、戦国期にさかのぼる。明応9年（1500年）、遠く相模の国・鎌倉の地から来住した窪川氏が、茂串山の頂に城を築き（茂串山城＝繁石「しげいし」）山城とも窪川城ともいう、麓には土居を構えた。この土居を中心に街が形成された。窪川氏は、仁井田五人衆の一人であり、この五人衆の中では最強とされていたようである。

さて、鎌倉の地からやって来て、茂串山城を築いたのは、備後守宣澄である。その子・充秋の頃、一条氏の配下となった後、長宗我部元親の幕下に入る。1592年の文禄の役では、充秋の子・宣秋と七郎左衛門の兄弟が出兵するのであるが、この時に2人とも戦死する。これによって跡継



大井野から窪川の街を望む。
戦国期には右の茂串山に、江戸期には左の古溪山に城が築かれた。

ぎを失った窪川家は断絶してしまふ。その後、元親は2名の家臣をこの地の統治にあたらせたがうまくいかず、新たに八木正久という家臣のもとに20人の一領具足（いちりょうぐそく＝長宗我部氏が兵農分離前の武装農民や地侍を対象に編成、運用した半農半兵の兵士）をつけこの地を守らせた。この20人の一領具足たちが居住していたエリアを「二十人畠（にじゅうにんばた）」という。現在の社会福祉協議会があるあたりである。

長宗我部氏滅亡後は、山内一豊の命を受けた林勝吉（後に山内一吉と名乗る）が、古溪山城を築き窪川一帯を治めることになる。その後の展開は、新開町の巻で記した通りである。

ところで、茂串山の麓、現在の旧半平旅館の裏手辺りに東光寺というお寺があった。これは、窪川氏の菩提寺で、備後守宣澄がこの地に来た時に開いたとされる。しかし、明治4年、吹き荒れる「廃仏希釈運動」の中で廃寺となってしまう。また、役場旧庁舎水道課があった所には、窪川山内氏の菩提寺であった浄照寺というお寺があったのだが、それも今はない。（次号へ続く）

町のうごき

(9月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,305	-15	男 4	20	10	9
女	9,259	-14	女 4	21	11	8
計	17,564	-29	計 8	41	21	17
世帯数	8,594	-4	(9月中の届出)			
窪川地域	12,334人		大正地域	2,501人	十和地域	2,729人

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	10月3日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.428
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≤ 10.0	2.410

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部